

2019年度 特別研究推進費実績報告書

2020年 4月 29日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 外国語学部・教授  
(氏名) 大平 剛

2019年度に交付を受けた特別研究推進費に係る研究実績について、  
次のとおり報告します。

研究課題名	北九州市でエシカル消費を推進するための基礎研究					
実施内容・研究成果の要旨 (概要書を別途添付)	<p>本研究の目的は、1. フェアトレードを含むエシカル消費に関する意識調査、2. フェアトレードマップの作成、3. 市内企業、高校との協働可能性調査であった。意識調査は、2学期の環境特講受講者の有志8名を4グループに分け、小倉駅周辺、リバーウォーク周辺、黒崎駅、門司駅の4か所でアンケートを実施し、最終的には160名のサンプルを集めることができた。データの分析に当たっては、マクレラン先生の協力のもと、SurveyGizmoを用いてデータを分析した。結果、認知度は約58%と高いことが分かった。ただし、男女差があり、女性の方が認知度が高いことや、年齢別でも高齢になるにしたがって認知度が低くなるという全国と同じ傾向が確認できた。次に、フェアトレードマップの作成に関しては、全国展開しているスーパー（イオン）や飲食店（ゼンショーホールディングス）、市内展開しているスーパー（サンリブ、ハローデイ、F-COOP）の協力を得、どの店舗でどのような商品が手に入るのかを確認してリストを作成したのち、デザイン事務所に依頼して「北九州フェアトレードマップ」を完成させた。個人商店はまだまだ少ないものの、市内には取り扱い商店が65ほど存在していることが分かった。5000部印刷したマップのうち、すでに2000部は協力店に置かせていただいている。これにより、市民に少しずつフェアトレードが浸透していくのではないかと期待する。3点目の企業や高校との協働可能性調査については、当初の予定では、先進的な取り組みを実践している愛知県南陽高等学校の先生を講師としてお迎えし、市内高校関係者を対象とした講演会を実施することとしていた。南陽高校の取り組み事例を学び、北九州市内の高校でも同様の取り組みができないか、さらには私が主催するフェアトレード団体Eticaと協働できないかを探る予定であったが、3月に予定していた講演会は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止せざるを得なくなった。別の機会に、是非とも同じ趣旨で講演会を実施したいと考えている。</p>					
	使用内訳（単位：円）					
交付決定額	561,539	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
支出額	329,487	0	13,923	22,100	287,504	5,960
執行残額	232,052					
共同研究者	所属・職名		氏名		役割分担等	
	基盤教育センター・准教授		ニール・マクレラン		データ分析	